

## 「協会との関わり、協会への想い」 設立当初から関わって

ワーカーズ・コレクティブ協会は、一般社団法人市民連帯経済つながるかながわへの3年後の統合を目指し、2025年度からは各「はたらっく」などの就労支援に関わる事業とカフェぼらんの事業に専念することになります。2004年の設立当初から関わってきた方々に、協会への想いを寄せていただきました。

神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会 初代専務理事  
NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会 初代専務理事

岡田 百合子



ワーカーズ・コレクティブ協会は、ワーカーズ・コレクティブ(以下W.Co)運動の一層の社会化にむけて法人格を取得し公的事業に取り組み「新しい公共づくり」の実現をめざす新たな運動でした。これは連合会の法人格取得の議論で2年間にわたって協議した結論です。

連合会専務を退任する私は、新たな中間支援組織づくりに向けてその役割を担うべく、役員はW.Co運動を面白がる連合会理事経験者に働きかけました。酒井由美子さん、一色節子さん、伊藤保子さん、鮫島由紀子さん、喜代永真理子さん、高橋桃代さん、上田祐子さん、そして連合会の役員に残った中村久子さん、木村真紀子さん等も理事として関わりW.Coをベースに新たな運動、事業づくりに取り組みました。横田克己初代生活クラブ神奈川理事長には、折に触れてW.Co運動に始まり参加型組織論、市民運動の在り方、コミュニティ

ワークの意義など、たくさん教えていただきました。

協会の方針など基本的な考えはその理念が基礎になっています。お手本のない運動に試行錯誤しながらめぐることなく継続できたのも、一緒に動いた理事や事務局スタッフの存在が大きいです。お互いを尊重し、大事に想う安心できる関係を維持できたのは、運動論で繋がっていたからだと思います。

ヨーロッパの福祉ツアーでイタリアの社会的協同組合を視察したことから、共に働く概念が広がり、生きづらさを抱える方たちを対象にした就労支援事業では、地域で暮らし続けることの大切さを再確認しました。今は「はたらっく」という地域単位で生活クラブと共に困窮者支援を通したまちづくり運動へ広がっています。すべて初めてのことであったが、学んで実践して振り返りの繰り返しの延長線上を皆と一緒にいることが嬉しいです。

NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会 第3代理事長

一色 節子



今から20年前、丁度還暦を迎え、生活クラブに関する活動には、一線を引いて自由に余裕を持つ

た動きにしていこうと思っていました。それが気が付いたらW.Co協会の監査を引き受けていた。

まあ監査ならばと置いていたらその後協会は新しい提案を次々と…。監査どころか理事長まで引き受けることになり、たくさんの活動に関わってきました。

思い起こされるのは、瀬谷で総菜の「コミュニティキッチンぼらん」を立ち上げたこと。そしてそこを閉じて数年後に、反町に「反町カフェぼらん」を開いたこと。協会が活動の中心としてきた「就労支援」「居場所づくり」「まちづくり」に関わる非常に意味のある場所です。そんなところに参加し、叱咤激励され誠に十分に楽しませてもらったことが、一番心に残る思い出です

20年前神奈川W.Co連合会から新しい組織として協会が生み出された、そのころ、当時の事務局長の岡田さんから、数えれば3回の食事・お茶・その他の誘いがありました。私を協会の活動に誘ってくれていたのです。私はまんまと引っかかって

それからの20年、非常に忙しく、辛く、落ち着いたのない人生となってしまいました。しかし、しかし、楽しかった。有意義だった。思い出に残る人々がたくさんいます。Mさん、Uさん、Hくん元気かな？就労支援でぼらんで働いてくれたよね。Kくん、Tくん…etc。学習会で教室で一緒に勉強したわね。

協会は今も神奈川県下にまちづくりや就労支援になどたくさんの活動をひろげてきています。いろいろやり方が違って、地域に生活クラブに組合員に協会に、皆協力し合って活動を続けています。私は岡田さんに感謝し、協会の皆様に感謝し、関わりのあった仲間感謝しています。今、私は地域の中で、自治会や老人会の中で、たくさんの活動ができています。協会で培った経験が全部活かしています。ありがとうございました。

## NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ協会 第4代理事長

中村 久子



2000年に公的介護保険制度が始まり、公的福祉に参入するワーカーズ・コレクティブの事業活動が進展しました。新たにデイサービスや移動サービス、子育て支援、入居施設の運営をするワーカーズ・コレクティブなどの立ち上げが活発に広がり、コミュニティ経済や社会的企業などへの関心が高まる中、法人格を持たない神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会は自治体との協議の場を持つことが叶わず、法人格を持った中間支援組織を必要としていました。2年に及ぶ議論を経て2004年、神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会理事長としてNPO法人格を持つ新たな中間支援組織を生み出すことに関わりました。

思えば、2004年、イタリアの社会的協同組合B型を始めとするヨーロッパの福祉社会へのスタディーツアーで多くを学び、生きにくさを抱えた人たちと共に働くことへのチャレンジの機会を得て実践し、課題を解決し報告書やテキ

ストにまとめ、さらに活用して道を拓くことの連続。理事メンバーのワーカーズ・コレクティブが協力者となり、就労支援の扉を押し開く日々でした。

2013年、愛媛大学の日本協同組合学会大会で「生きにくさを抱えた若者たちと共に働く暮らす」、2015年、聖学院大学の同学会研究大会で「生活クラブ神奈川と(N)ワーカーズ・コレクティブ協会との連携で進める生活困窮者支援」の報告をしました。2015年は生活クラブの職員領域で就労支援の受け入れが始まったばかりでどう展開できるのか不安もありましたが、生活困窮者自立支援法の施行の年でもあり機を得た決断でした。横浜の就労準備支援事業の受託を追い風に、協力事業者を増やす一方、反町カフェぼらん、「はたらつく・ざま」へと社会的連帯経済の実態づくりが大きく進みました。理事会・スタッフ、会員団体が一丸となってチャレンジできたことに感謝です。